

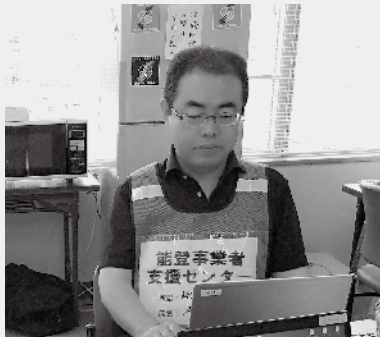
Report

能登半島派遣報告

会場 のと里山空港
能登事業者支援センター

応援経営支援員

当所支援グループ 今井 雅浩



今回、当所より三人目の応援派遣として、石川県輪島市にある能登事業者支援センターに行っていました。

今回の派遣期間である6月19日～21日は、補助金の申請書提出の期限が迫っていることに加え、石川県から新しい補助金制度がいくつも発表されたため、いつも以上に賑わっていました。

私は十数件の相談に対応しましたが、被災された方々から全壊した建物や事務所、散らかった作業場の画像を見せていただいたり、体験談を聞かせていただいたりすることで被災地の悲惨な状況や復旧作業の遅れを痛感しました。

例えば、復旧に苦心している産業の一つに輪島塗などの伝統産業が挙げられます。ご存知の通り、輪島塗は細かな分業制によって成り立っています。しかし、途中の工程を担う事業者が被災により廃業してしまったため、材料が手に入らない、製品の納品先がなくなったなどの問題が発生しています。当面は、被災現場から材料を救出したり、金沢市内へ在庫を避難したりして対応するようです。長期的には廃業した事業者の工程を前工程あるいは後工程の事業者がカバーできるようにするために新しい機械を導入する動きが見られます。また、それに伴う補助金の申請もいくつかありました。

一見、良さそうな取組みに思えますが、輪島塗の関係者によると、それは本業にかかる時間が削られることで製品の質や生産量が低下するリスクがあるとのこと。この事例からわかるように、各種補助金を申請して新しい設備を導入したからといって簡単に解決するものではないようです。改めて、地震が能登半島の伝統産業に与えた影響は計りしれないことを思い知りました。

一方で、センターに来所された相談者の皆さんが非常に明るくにこやかなことに驚きました。自宅や事務所、工場などが壊滅的な打撃を受け、仮設住宅で生活していらっしゃる状況できっと大きな悲しみや苦しみを胸中に抱えているであろうにもかかわらず、元気で笑顔を絶やさず前向きな姿勢で頑張っている姿に感銘を受けました。

能登事業者支援センターにおいて各機関が連携して行う支援活動は、多少なりとも役立っていると考えています。しかし、能登半島の復興と地域経済の再生を図っていくには、多大な労力と物資の投入、そして住民の方々の心のケアに長い月日がかかることを今回の派遣で強く感じました。